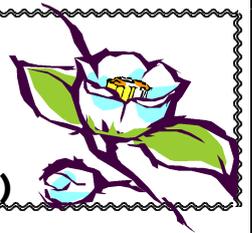


さざんか

花言葉「困難に勝つ」



妻沼東中学校 3学年だより 第15号 平成29年3月13日(月)

忘れられない卒業式3日前のこと…

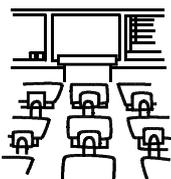


卒業式が近くなると必ず思い出すことがあります。20年も前の昔のことですが、私は3年生の担任をしていました。生徒との別れが辛くて一日一日がとっても貴重に思えた日々を送っていました。卒業式を明々後日に控えた夕方、ワックスがけを済ませた誰もいないはずの教室に向かったのです。薄暗くなった教室に行くと人影が…。

そこにはとても真面目で、高校入試に向かってもかなりの努力をしていた(よく質問に来たり、相談に来たりしていた。)男子2人の姿があったのです。なんと、2人は、そこでガムを噛んでいたのです。とても信じられない光景でした。たかがガム一枚のことですが、私にとっては、高く積み上げた積み木が一気に崩されたような思いで、ショックでした。しかし、彼らを怒らなくてはなりません。めったに怒ることなく平穩無事に過ごしてきたこのクラスの生徒

を卒業式3日前に心の底から怒鳴りつけたのです。「何をやっているんだよ。あなた達の行く高校がどうであれ、ここは中学校なんだよ。あなたたちがこんなことをやっていたら、私はこのクラスの人を疑わなくてはいけないじゃない。それに傷ついた私の心をどうしてくれるのよ・・・」と、思いっきり声を張り上げました。情けない思いで涙が出ていました。2人は、私から怒られたことがなかったので途方に暮れ、これからどうして良いのか悩んだ末、学年主任の先生に相談したのです。その先生は、「お前たちが胸を張って卒業するにはどうしたらよいのかを考えて行動しろ。」と一言でくださったそうです。ガムをもらって噛んでいたAさんは、よく考えた末、反省文を原稿用紙3枚に書き、翌日持って来てくれました。そこには、「自分のやった行為は、どうしようもない取り返しのつかないことでした。もうすぐ高校生になるんだといった浮ついた気持ちでいました。自分が先生にどう思われても仕方のないことですが、どうかお願いします。先生が信じたこのクラスの生徒を先生自ら疑わなくてはならないことほど辛いことはありません。どうかそれだけはやめてください・・・」と言った内容でした。ガムを持ってきた方のBさんは、その日は何の音沙汰なくじっと考えていたようです。しかし、卒業式前夜のことです。

なんと栃木県の私の家まで4時間かけて手紙を届けに来てくれたのです。



「ガムを持ってきた僕が一番悪いのです。僕が持ってこなかったらこんなことにならなかったのです。申し訳ありません。」と深々と頭を下げに来たのです。私は、この2人の手紙を何度も何度も読み返しました。



2人の心からの反省に胸を打たれました。そして迎えた卒業式。体育館のガラスが割れるんじゃないかと思われるほどの大きな声で卒業生の合唱

が響きました。そこには、大粒の涙をこぼしながら声を張り上げている2人の姿がありました。たった一枚のガム、たかがガム一枚ですが真剣に自分の心と向き合ってくれた3日間でした。

皆さんの卒業式はどんな思いで迎えるのでしょうか。当たり前のように過ぎていく今日という日がもう二度とやって来ないということに気づいていますか。みなさんの進路のこと、人としてこうあって欲しいと常に考えて皆さんに接してきた、担任の瀧澤先生・荒木先生・井上先生・万里先生の気持ちもそろそろ理解できる頃でしょうか。今日の球技大会では、学級委員の進んで行動する頼もしい姿がありました。皆さんも胸を張って妻沼東中学校の門を後にできるように残りの時間をしっかり過ごしてください。

< 3月13日球技大会(サッカー・ドッジボール) >

